



2 エッセイ／“おかね”を語る
がんばれ、花子さん! 作家 村岡恵理



4 インタビュー／扉を開く
野村萬斎 狂言師
「この辺りの者でござる」と名乗る狂言の精神



9 地域の底力——奈良県桜井市
新たな歴史を紡ぎはじめた古の「まほろば」
奈良県桜井市

16 対談／守・破・創
幸田真音 作家
雨宮正佳 日本銀行副総裁
「人の営み」を映し出す経済から小説は生まれる

20 貨幣の世界——最終回 [形 その7]
現代の貨幣——国もいろいろ形もいろいろ——(5)

24 FOCUS → BOJ 27 日本銀行総務人事局 日本銀行におけるダイバーシティ推進の取り組み
すべての職員が能力を最大限に発揮できる組織を目指して

日本銀行のレポートから

28 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2019年1月—

30 「地域経済報告」(さくらレポート) —2019年1月—

別冊「人手不足のもとでの賃金動向と
新たな給与体系の構築に向けた取り組み」—2018年12月—



36 トピックス
長崎支店は開設70周年を迎えました ほか

39 AIR MAIL from Frankfurt
変化と伝統のフランクフルト

表紙のことば

日本銀行松山支店は、日本銀行の一七番目、四国で最初の支店として、昭和七年(一九三二)に開設されました。

初代店舗は、辰野金吾博士の高弟・長野宇平治氏の設計によるルネサンス様式風の建物でした。戦時中は、防空対策として、白亜の建物全体に伊予紵の廃液を流しかけ藍色の迷彩を施しました。幸い空襲による延焼を免れ、地域の金融経済活動を支えるため業務を続けることができました。

表紙の現店舗は、初代店舗の老朽化などに伴い、昭和五十九年(一九八四)二月に建て替えられた二代目です。市民から長く親しまれてきた初代店舗は保存を望む声も強く、解体前の一般公開時には多数の見学者が訪れ、名残を惜しましました。

現店舗の営業場には、初代店舗の格子形の天井を模した照明器具を設置したほか、ロビー上部に初代店舗の持ち送り金物(壁や柱から突出させて梁などを支える部材)を再利用するなど、初代店舗の記憶が継承されています。松山支店はこれからも松山の街とともに歩みを進めていきます。



表紙・画 北村公司